

北海道 碎石だより

NO 118
平成 21 年 1 月 1 日

(社)日本碎石協会北海道地方本部



新たな年にむかって

「子年」から「丑年」に替わり、気持ち新たに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

長引く不況の中ですが、努力を怠らなければ成果が上がる例えとして、「牛の歩みも千里」という諺があります。

明るい兆しが見える年になるよう努力しましょう。



(社)日本碎石協会北海道地方本部 本部長
北海道碎石協同組合連合会 会長
(社)日本碎石協会 札幌支部 支部長

岡 本 繁 美



新年あけまして

おめでとーございます

「昨年を振り返り」

昨年は、社団法人日本碎石協会北海道地方本部が創立50周年を迎えるという記念すべき年でありました。

7月22日、関係行政機関をはじめ、業界団体、全道の会員、賛助会員等、多数のご出席を頂き盛大に記念式典等を執り行うことができました。

多くの皆様方に、長きにわたり

ご指導ご鞭撻を賜りましたことにも心からお礼申し上げますとともに今後、これまで以上のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成20年のわが国経済は、米国のサブプライム住宅ローン問題を背景とする世界的金融不安により、景気の先行き不透明となり、不透明感はさらに強まってきております。

昨年の北海道の公共事業は、公共投資の削減に加え、道路特定財源問題で道路予算が凍結するという異常な形でスタートしました。

碎石業界は、これまでわが国の社会資本整備や住環境の整備を支え、豊かな暮らしの実現に貢献してきておりますが、碎石の需要の減少、再生材の優先使用が定着化し、価格の低迷が続いてきており

ます。

さらに、原油価格の高騰から、資・機材が値上がりし、生産コスト、輸送コストが上昇し、自助努力も限界に達しているところがあります。

「基礎資材の安定的・持続的供給をめざして！」

今後も、この厳しい経営環境がつづくことが想定される中で、碎石業界が将来にわたって経営を維持し、企業収益を回復させ経営を安定させていくためには、これまでも取り組んできていた技術力の向上、徹底したコスト削減による経営体質の強化であります。

そのためには、将来を見据えた経営方針の確立、経営の共同化、協業化等の検討を行っていくことが急務であります。

これらの検討は、各企業はもとより、協会、組合など業界全体で検討していくべき課題でもあり、協会会員、組合会員が一致協力し

て取り組む必要があると考えています。

また、労働災害の防止については、平成18年に発生した災害を最後に無災害を継続しているところであり、経営者、業者がともに、しっかりと安全対策の下、「怪我をさせない」「怪我をしない」を合言葉に無災害を継続していく取り組みが大切であると考えています。

「地域から信頼される事業展開を！」

昨年は、地球環境サミットが洞爺湖町で行われ、環境問題が世界的に注目されています。

碎石業においては、自然環境に配慮した採掘、採掘跡地の整備・緑化等については他の模範となるよう事業を推進することが求められていますと同時に、碎石業を地域の中で継続していくためには、その地域の人々に信頼され、地域と共存できる取組みを企業各社が責

任を持って取り組むことが必要でありあります。

「北海道経済活況のためには積極交通網整備を！」

北海道経済が活況を取戻すには、北海道新幹線の札幌までの延伸、高速道路等路網の整備など地域と都市を結ぶ社会基盤の整備が必要です。

交通網の整備が図られることにより、北海道の観光資源は活かされ、北海道ならではの農畜産物が本州各地へと移出されることとなります。

私も砕石業界は、そのためにも基礎資材である砕石の安定的・持続的供給が出来るよう、体制整備を行い、事業の円滑な実施に努めていくことが重要であります。

終わりに、本年が我々砕石業界はもとより、北海道の建設関連業界にとりまして、明るい兆しに見える新たな展開の年となることを祈念し、年頭のご挨拶とします。

北海道国有林採石協会 会長

辻 庄 嗣



協会の皆様

明けましておめでとうございます。

謹んで

新年のお喜びを申し上げます。

昨年は、各地方協会を廃止し、北海道国有林採石協会として新たなスタートした年でした。

会員の皆様には、これまで各地方協会単位で活動してきた経過がありますので、地方協会を廃止することには、今後の各地区の協会活動に対する不安など多々あったかと思えます。

昨年度は、経過措置としてこれまで同様、各地区に地方連絡員を配置し円滑な協会活動が行えるよう措置してきましたが、新年度からは名実ともに北海道国有林採石協会として活動していくこととなります。会員の皆様には、これまで同様の、ご理解ご協力をお願いいたします。

昨年を振り返りますと、全般的な公共工事の減少に加え、年度当初の道路特定財源廃止に伴う公共工事の発注遅れ、さらには原油高騰による生産コスト、輸送コストの大幅な上昇と協会傘下各社の経営状況は、これまで経験したことがないほど厳しい状況にありました。

依然として、景気回復の兆しが見えない状況が続く昨今の社会情勢は、個々の企業や業界独自の努力では諸般の課題を解決できない状況であります。

世界的な金融不安から、景気の

回復の兆しが見えない状況にありますが、採石業は社会資本の整備に必要な基礎資材である骨材を定供給するという社会的使命を担っています。

他の模範となるよう、自然環境の保全に配慮した事業を推進することはもとより、採石跡地の整備・緑化等に努め、業界のイメージ・アップを図るための事業を積極的に行っていく必要があります。

事業を円滑に実行していくためには、労働安全の確保がなによりも重要であります。

会社一丸となって、安全対策を確立し災害のない職場づくりに努めていただきますようお願いいたします。

終わりに、本年が砕石業界にとつて明るい兆しに見える一年になることを祈念し年頭のご挨拶とします。



◆留萌支部◆

支部長

原田 紘一



新年明けまして

おめでとうございます。

昨年はアメリカに端を発するリーマンブラザーズ、サブプライムローン問題で金融危機がおこり、それが世界にも波及し、日本にも景気後退の局面をもたらせ、とりわけ自動車産業をはじめとする輸出産業には大きな打撃となり、その影響は北海道経済にも影を落とすはじめています。経済の主役である観光、特に後志ニセコの開発事業は外国資本の撤退を余儀なくされ、また北海道全体の雇用も厳しい情勢になっております。

また原油価格も春から秋まで高騰しそれに伴う生産コスト・輸送コストの急上昇により企業経営が大きく圧迫されました。さらに、鉄・資材価格の高騰もコスト上昇の一因となりました。

当社は、留萌ダムの建設事業も終わりにかけ公共工事も減っている中、高規格道路、海岸、河川、地方道路の整備等が行なわれております。

また、今年も死亡労働災害ゼロを目指し、協会の安全スローガンを遵守していきましょう。最後に今年一年当業界および会員企業が一致団結して発展し、より明るい良い年となりますように祈念いたします。

◆小樽支部◆

支部長

辻 庄嗣



平成21年度の年頭に当りまして、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は社団法人日本砕石協会北海道地方本部創立50周年という節目を迎え、これまでの半世紀を振り返り、業界を導いてくれた先人の皆様に感謝申し上げます。

さて、我々の砕石業界は近々、原油価格の高騰、公共事業の削減、再生骨材の出現でコスト高の売り上げの減少で企業の経営環境は、一段と厳しくなってきました。

この環境の中で各企業は生き残りを掛けて経営体質の強化に取り組んでおりますが、新年度は自然環境と調和した掘削、緑化の推進、採石跡地整理、採石災害・労働災害の防止・交通事故防止などの事業の推進を図って行きたいと思っております。

今後とも、会員皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆様のご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

◆網走支部◆

支部長

渡辺 正利



平成21年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

緩やかな回復基調が続いてきたと言われた日本経済は、米国発の金融危機は世界同時不況を引き起こし、円高・ドル安は国の経済の牽引役であった輸出産業及び関連企業に致命的打撃を与え日本経済は先行きが全く見えない事態となりました。

また、本道経済は国の経済の停滞に伴い一層厳しい局面となり、特に建設業関連中小企業は業績悪化が顕著となるなど厳しい状況で推移しました。

我が砕石業界も道内の公共工事削減による需要量の減少、暫定税率の一時失効による工事発注の遅れに追い打ちをかけた異常な燃油高騰により生産コストの上昇で経営環境の悪化は止まらず厳しい状況におかれました。

砕石は社会基盤整備に不可欠な資材であり、安定的、継続的に供給していく事が業界の責務であり、適正価格による健全な企業経

営が基本であります。

厳しい年となると思われますが、会員皆様のご支援をいただき業界発展はもとより地域発展に寄与してまいりたいと考えております。

最後に皆様のご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

◆釧根支部◆

支部長

中田 哲



新年あけまして

おめでとぅございませす。

平成21年の年頭にあたり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、一部投資家のマネーゲームによる原油価格の異常なまでの高騰や穀物価格の上昇によって、生活物資の値上げが相次ぎ、個人消費の低迷をはじめ設備投資も減少し、更にサブプライム問題による金融危

機など世界恐慌という言葉も飛び交う混乱の一年でありました。

わが国経済はというと、小泉政権時に強力に推し進めた構造改革と規制緩和、市場ゲンリ主義により地域間格差が見る見る拡大し、一部大企業を除き、地方経済はどん底まで落ち中小企業の破綻が相次ぎました。中でも公共事業を糧とする建設業界と関連業界は山のような倒産となつて、わが砕石業界としても非常に厳しい年でありました。

今年には、新政権のもと新年度予算編成の中で、公共事業3%削減を撤廃し、国庫補助額の一律かさ上げも検討されており、また北海道のような景気低迷が著しい地域に重点的な予算配分を期待し、支部としても協会会員が一致団結するとともに、各共販組合の積極的な活動により徐々に成果を上げてきた骨材の適正価格の確保と、業界として進むべき道を確立し飛躍の一年としてまいりたいと考えております。

新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちた幸多き年となりま

すよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

◆函館支部◆

支部長

松田敏宏



企業の生き残りをかけ

経営体質の強化・構造改革」

平成二十一年の新春を迎え

謹んでお慶び申し上げます。

さて、昨年の我が国の経済は、異常ともいえる油の価格高騰や、米国のサブプライムローン問題を背景とした金融不安から、世界的に大幅な株安となり、連動して円高等が起き、それが日本経済にも波及し経済不安へと発展し、不透明感がただよい見通しのない状況でありました。こうした中において北海道経済は、年々の公共事業の減少を反映し、景気回復は全く感じられませんでした。

当支部のエリアとしましては、道南地方一帯であります。国や地

方自治体の財政縮減が続く限り、公共事業に余り期待は持てませんが、砕石は社会資本整備に不可欠な重要な資材であることに変わりはありません。現在道南では、高速道路・高規格道路・新幹線の車両基地工事等が施工され一部骨材需要がありますが、公共事業の減少を補完する迄には至りません。特に近年では再生材の優先使用もあり、砕石の需要減少の大きな一因にもなっております。

砕石業は地場産業であり中小企業の集団であります。砕石業の経営は需要減少と色々なコスト上昇に伴って悪化しており、自助努力が限界にあるのも現実です。

しかし、今後も国・地方自治体の財政縮減が続く中、将来にわたって経営を維持していく為には更なる無駄を省き、コスト削減によつて個々の経営の体質を強化する事が急務であります。そして業界にあつては、経営の共同化や共同採掘・プラントの集約化を推進する等、積極的な構造改革が必要であります。

我々には基礎資材である砕石を

常に安定的且つ継続的に供給する使命がありその為の努力が大事です。

他方、自然環境を調和した採掘並びに跡地の整備緑化は碎石業としての社会的責任でもあります。

終りになりますが、本年が会員と組合員にとりまして、少しでも充実した年となりますよう祈念し新年のご挨拶と致します。

◆旭川支部◆

支部長

橋井一実



新年あけまして

おめでとうございます

昨年は、アメリカ発金融恐慌に端を発し、かつてない金融不安により、日本経済は急激に悪化し、我々業界もこれまで経験したことのない状況に追い込まれています。

今年も引続く不況が想定される場所ですが、北海道経済に明日の灯りが見えるような景気対策を期待すると同時に、我々業界にと

つても希望が見出せる年になることを祈念し、年頭の挨拶とします

◆室蘭支部◆

支部長

大野知道



新年明けまして

おめでとうございます

皆様方には、さわやかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、昨年も会員各社のご尽力と、道本部のご支援ご協力を頂きましたことにより、支部内において重大災害がなく一年を過ごせましたことに対しまして心より感謝を申し上げます。

さて、現在は100年に一度といわれる世界規模での経済悪化により、先行きが全く見えなくなっております。このような時代に対し、どのような対処をすべきなのか…全然思いつきません。このように大きな変化に対して、とりあえず私ができることは小さな実行です。自分自身と対話し、どんな自分を

望んでいるのか？そしてその為にするべきことを実行する。小さなことからコツコツと。家族関係、会社関係も同様に対処できることから実行する。やがては思い描いた到達点にたどり着けると信じて、行動していこうと思っています。

最後に、本年も皆様方の暖かいご指導とご協力をお願い申し上げますと共に、希望あふれる新たな一年となりますようお祈り申し上げます。

◆稚内支部◆

支部長

粥川照雄



謹んで新年のお喜びを

申し上げます。

昨年は公共工事の減少に加え、原油の高騰から生産コスト、輸送コストが大幅に上がり、経営危機に直面した年でした。

原油価格は値下がり傾向にあるものの、毎年、公共工事は減少し、北海道経済は依然として氷河期が

続き、我々企業は経営が成り立たない状況下にあります。

苦しい中でありますが、安全作業に努め明るい職場づくりに努めていく所存です。

◆十勝支部◆

支部長

加藤達也



新年明けまして

おめでとうございます

昨年来の世界的な大恐慌が日本経済にも大影響を及ぼし、百年に一度と言われる不況風が吹きまくる年の始まりとなりました。

近年、私たち業界を取り巻く状況は、公共工事の削減や原油高による生産コスト高、さらには、再生材の優先使用等、企業経営が困難化する状況にあります。

今しばらくはこのような状況下での経営が続くことが想定されますが、苦しい時ほど会員相互の緊密な連携の下、情報を共有しながら頑張っていきたいと考えています。

50周年記念式典祝賀会

◆記念式典◆



「特別業界功労者表彰」受賞者



乾杯



祝賀会



◆アトラクション◆

ひょっとこ踊り



お疲れ様でした(^^)／

第三十七回

「採石業務管理者試験結果発表」

昨年、10月10日行われた第37回採石業務管理者試験結果が11月7日に結果発表されました。

◆全国

出願者数 1562人
 受験者数 1506人
 合格者数 501人
 合格率 14・1%

◆北海道

出願者数 79人
 受験者数 75人
 合格者数 20人
 合格率 26・7%

合格されました受験者の皆さんおめでとうございました。
 惜しくも合格に届かなかった皆さんには今年こそ合格されますことを祈念しております。

<平成21年度行事予定表>

月	【道本部・連合会】	【本部関係】	【その他】
1	27日 正副役員会議 理事会		16日 北海道国有林採石協会 役員会
2	27日 平成21年度 通常総会(東急イン) 第2回理事会		26日 砂利協・工組総会 27日 北海道国有林採石協会 通常総会
3	27日 支部事務局会	未定 技術・安全委員会 中旬 第98回常任理事会	
4	下旬 正副役員会議 理事会	17日 平成21年度理事会 (グランドプリンスH新高輪)	
5	下旬 支部事務局長会議	22日 平成21年度通常総会 (グランドプリンスH新高輪) 未定 技術・安全委員会	
6	下旬 第10回砕石研究会 記念ゴルフ大会		上旬 全国国有林採石協会 通常総会 下旬 北海道国有林採石協会 役員会
7	23日~24日(金) 砕石技術・安全登録講師 研修会	未定 技術・安全委員会	下旬 北海道国有林採石協会 全道研修会
9	中旬 理事会(移動)	未定 技術・安全委員会	
10	下旬 支部事務局長会議	6日~8日 第36回全国砕石技術大会(松山) 愛媛県民文化会館	中旬 採石業務管理者試験
11		未定 技術・安全委員会	
12	中旬 正副役員会議 理事会		

「編集後記」

新年あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

「北海道砕石だより」新年号を会員の皆様のお手元にお届けすることができ嬉しく思っております。

各支部には年頭所感など記事の投稿を頂きお礼申し上げます。

今後とも、各支部の活動状況や地域の情報の提供をお願いします。

「北海道砕石だより」が各支部の情報交換の一助となるような紙面に、また、親しみのある紙面となるよう頑張ります。

編集事務局一同